学習指導改善調査・協力校　十日町市立西小学校の取組

はじめに…

〇学習指導改善調査の協力校として、本校の校内研修の一端を紹介します。

〇９月の「校内研修のてびき」を活用した校内研修を紹介します。→全体公開授業研修

〇全体公開授業研修は、３年１組高野教諭による国語の授業でした。

（別紙：指導案・考察を紹介します。）

〇研修のまとめを掲載します。（別紙）

※１，２学期に各自が実践した提案授業や重点単元の授業、およびそれらの指導案、成果と課題をまとめたレポート集については特に掲載していません。もし参考に見たいという場合は、当校にご連絡ください。

平成２７年度　西小学校　校内研修計画

研究推進部

１　研究主題

「自分の考えをもち　進んで伝える子」の育成

２　研究主題設定の意図

（１）学習指導要領の趣旨から

学習指導要領総則では、「生きる力」の育成が挙げられている。この「生きる力」の育成に向け、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させることと、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことが求められている。また、これらの基盤となるのは言語に関する能力であり、各教科等において「言語活動の充実」が重視されている。

子どもがこれらの確かな学力を身に付けるためには、日々の授業で「自分の考えをもち　進んで伝える」学習活動を積み重ねることが大切と考える。「自分の考えをもつ」ことは、思考力・判断力・表現力を育むための基盤となるものである。そして、自分の考えを「進んで伝える」ことは、主体的に伝え合いながら互いの考えを広げたり、深めたりしていくことで思考力・判断力・表現力の育成につながるととらえる。つまり、研究主題の実現こそ、学習指導要領の「生きる力」の育成につながると考えるのである。

（２）昨年度の成果及び課題から

今年度の研究主題は、昨年度から継続となる。昨年度は、研究主題に基づき学年部ごとに目指す子どもの姿を明らかにした。また、「思考を深める話し合い」「思考の手がかりとなる板書」という視点を設定し、授業研究及び児童の実態から各自が設定した重点単元の実施や日々の授業の取組をまとめたレポート研修等を通して、次のような成果と課題が見えてきた。

「思考を深める話し合い」

○導入時における活動の工夫により、学習意欲を高め、既習事項を確認でき有効であった。

○算数的用語などの学習用語の活用により、話し合いが深まり、ねらいにせまることができた。

○話し合いのねらいを明確にし、形態を工夫することで、目的意識をもち話し合いが深まっていった。

○発言の仕方を工夫したり、肯定的な評価を意識したりすることで、子どもは安心感をもち発言意欲を高めることができた。

○ホワイトボードの活用により、思考を整理することができ、また、話し合ったことを伝え合う場面で特に有効であった。

「思考の手がかりとなる板書」

（南中区共通：「◎課題　問題　まとめ　ふりかえり」プレートの活用）

○課題の提示により、授業のねらいが明らかになり、学習の見通しがもてた。

○課題とまとめを対応させた板書により、学習の流れと分かったことが明確になった。

○教材研究をして板書計画を立てることにより、付けたい力を明確にした授業となる。

しかし、次のような課題も明らかになった。

「思考を深める話し合い」

△基礎的・基本的な知識を十分に身に付けていない、語彙が少ないために、自分の考えを分かりやすく、根拠を明らかにしながら伝えることができない。自信がない。

△子どもの考えを引き出す、つなぐ、切り返す、問い直す、論点を絞り込む、整理するという授業者の力量をより高めていく必要がある。

「思考の手がかりとなる板書」

△「◎課題　問題　まとめ　ふりかえり」は、活用しやすい教科あるいは学習内容もあるが、（特に算数・理科）活用しづらい教科もある。そのため、研究内容の視点としては、教師間にも温度差があったのではないか。また、研究推進部でも、校内だけでなく南中区共通の取組としても十分まとめることができなかった。

（３）昨年度までの学力の実態から

①ＮＲＴ学力検査の結果（省略）

②２６年度ＣＲＴの結果（全国比）〔２７年１月実施〕（省略）

③学習指導改善調査の結果（県比）〔２６年７月実施〕

	現５年生	現６年生	現中学１年生
国　語	５８．７（６４．５）	７９．７（６７．９）	５７．４（７１．７）
算　数	６２．６（６０．８）	６３．６（５２．８）	５６．３（５８．５）
理　科	７５．２（７２．９）	４１．２（４６．６）	６２．９（６３．３）

△記述の問題、活用の問題での無答率が高い。

学習指導改善調査の結果（県比）〔２７年７月実施〕

	現４年生	現５年生	現６年生
国　語	７０．３（６１．４）	５９．５（７３．４）	８０．０（６８．６）
算　数	５０．６（４８．１）	５４．９（５４．０）	３７．１（３４．４）
理　科	４６．３（４３．５）	６２．２（６２．２）	６４．０（６０．３）

④全国学力学習状況調査の結果　（　）は県比・全国比〔２６年４月実施〕（省略）

以上のような昨年度の成果と課題及び学力実態、または日頃の子どもの学びの様子から、思考力と表現力に課題があるといえる。そこで、研究主題は継承しつつ、研究の内容と方法をさらに具体化しながら研究主題に迫っていきたい。

３　研究の内容

（１）授業改善

研究主題「自分の考えをもち　進んで伝える子」の具体的なめざす子どもの姿を、学年部で再検討する。（再検討し、以下のようになる。）

【Ｈ２７】

	自分の考えをもつ子	進んで伝える子
低学年	自分の考えを、図や言葉で表す子	友達の考えを最後まで聞き、はっきり話す子
中学年	自分の考えを、根拠を明らかにして表す子	友達の考えに関連付けながら、聞いたり話したりする子
高学年	自分の考えを、学習した用語を適切に用い、要点をまとめて話す子	話し手の意向をとらえて聞き、相手に意向が伝わるように話す子

研究主題「自分の考えをもち　進んで伝える子」の育成に迫る授業改善の有効な手だてを、授業実践を通して提案し、集積していく。集積した内容を職員で共有しながら、日々の授業に取り入れていくことにより、授業改善の日常化と共有化を目指す。

（省略）

（２）各学力調査の定着状況の把握と指導の見直し

（省略）

（３）Ｗｅｂ配信集計システム　（年間計画は別紙配付）

学力向上システム活用事業（新潟方式）を活用し、日々の授業や指導の見直しをしていく。正答率の低かった問題については、丁寧な解説やサポート問題への取組、各種テストで繰り返し出題するなどして定着を図る。また、過去問題も活用し、基礎基本の定着を図る。（ダウンロード…恩田　印刷…樋口）

（４）学習習慣の形成

①南中学校区共通学習規律「学びのじゅんび」「学びのやくそく」の実施

南中学校区の学習指導班で作成した「学びのじゅんび」「学びのやくそく」を４月の初めに指導して教室に掲示したり、保護者にも配布したりすることにより共通理解を図り、学習規律を身に付けていく。

②授業マナーバッチリデー

毎月最週水曜日を「授業マナーバッチリデー」とし、「学びのやくそく」について子どもの自己評価を行う。（子どもも職員も意識をするため）学年部の研究推進部に人数と指導の手立てを口頭で伝える。それらを簡潔に、研究主任が月の最終職員終会で伝え共通理解を図り、定着につなげる。

５　研究の方法

（１）全校授業公開による授業改善

①教科は、国語または算数とし、研究主題に基づき授業研究を行う。

②学年部で１名。細案。

（省略）

（２）学年部による一単元の授業計画の作成と公開授業

①教科は、国語または算数とし、研究主題に基づき授業研究を行う。

②全体授業公開を行わない授業者は、学年部で授業公開を行う。指導案は、全職員に配付し、学年部以外の職員も可能な限り参観する。**（省略）**

③指導案はＡ３・１枚とする。（細案でもよい。）

（３）レポート研修による成果と課題の共有化

①夏季休業（１学期のまとめ)、冬季休業（２学期のまとめ）に行う。

②授業公開をした場合はその単元の実践をレポートにまとめる。授業公開がない場合は、研究主題を意識した授業実践を１単元行う。その授業のポイントおよび成果と課題についてレポートにまとめる。

③レポートは、研究主題を意識した授業実践だけでなく、日頃の取組についてもまとめ、職員が互いに学び合えるようにする。

④レポートの形式等については、５月の恩田の授業実践後に提示する。

（４）南中学校区の取組（６月５日に検討）

・授業改善への取組　～「分かる・できる」授業を目指した板書の工夫～
・職員の小中交流・情報交換の実施

・南中学校区「共通の学習規律」の指導の継続
・児童・生徒の実態に基づいた指導計画の修正・改善

６　その他の研修（今後、実施内容と時期を調整していく。）
（省略）

７　評価方法
教師の日頃の見取り、子どもへのアンケートや保護者へのアンケート、及び学力検査の結果等に基づいて、研究主題に対する評価を行う。教師の見取り方については、指導案に明記する。

８　研修日程　（省略）

紹介します！ 第４回　職員研修（９月の小教研：「校内研修のてびき」を活用した校内研修）

研究推進部

１　日時　　９月２８日（月）
２　場所　　図書室
・Ａグループ（低学年部…）
・Ｂグループ（中学年部…）
・Ｃグループ（高学年部…）

３　内容　　**〇「学習指導改善調査」について**
①結果（県との正答率比較）、「授業改善のポイント」について
配付資料に目を通す。

②グループで話し合い
①を踏まえて、今後の授業改善について話し合う。
例）今後、公開授業を行う学級の授業について
学年部の若手教諭の悩んでいる単元について　など
（事前に学年部研究推進メンバーが学年部で意見を聞き、決めておく）

③グループで話し合ったことの共通理解
学年部研究推進メンバーが話し合ったことをまとめ報告する。

〇指導　（校長）

４　その他　　「新潟県小学校教育研究会」のホームページに参考となる資料があります。
例）問題の分析　～なぜ、まちがえたのかな？～
指導案　～授業はこうすればいいんだ！～

３学年１組　国語科学習指導案

平成２７年１１月１８日（水）２校時
授業者　高野　真之介

１　単元名　　写真が動き出す　―写真から物語を作ろう―

２　評価の観点からみた単元の目標

○　物語作りに関心をもち、創作活動を楽しもうとする。【関心・意欲・態度】
○・写真やその前後を想像し、「はじめ」「中」「終わり」の構成と段落の役割を意識しながら、読み手にその様子が伝わるような物語を作ることができる。
・書こうとすることを明確にし、読み返したり読み合ったりして、よりよい表現に書きかえることができる。
・心に残った表現や書き方のよさを伝え合うことができる。【書く】
○　段落の始めや会話の部分などの改行部分に気を付けるとともに、表現に際して、擬音・擬態などのオノマトペが活用できることを理解することができる。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

３　単元の構想

（１）子どもの実態　　２８名（男子１６名　女子１２名）

読書好きな児童が多い。読書をするときは、いつも静かに集中して読むことができる。その成果もあり、音読では、すらすらと文章を読める児童が多い。その一方で、途中でつかえたり、句読点で切らずに読んだりする児童もいる。

「話すこと・聞くこと」に関して、「自分の立場をはっきりさせ、理由を言う」という話し方ができる。また、友だちの発言内容に対して付け足しをして発表をしたり、その内容に対する自分の考えを発表したりすることができてきており、進行に沿って話す力も身に付いてきた。また、言葉や文の一つ一つに着目して話したり聞いたりできる児童が多い。特に、日直が行うスピーチでは、必ず四文で話すようにしており、限られた文の中の言葉や文そのものについて、話し手や聞き手が意識するようになってきた。

国語における「書くこと」の活動では、自分の考えや思いを文章にくわしく書き表すことができる児童が多い。かぎ（「」）を使って会話文を入れたり、オノマトペを使った表現をしたりする児童が増えてきた。しかし、文の前後の関係が整っていなかったり、「はじめ」「中」「終わり」の組み立てができていなかったりする児童もいる。そのため、接続語や段落を意識して書く練習を取り入れ、書く力を身に付けさせている。

（２）指導の構想

①　単元について

本単元は、一枚の写真から分かることを考え、それをもとに想像を広げて物語を書くという、主に書くことが中心となる単元である。二年次において、「つづき話を作ろう」という単元を通して、続き話を書く学習を行った。その学習では、「読み手に伝わるよう、組み立てや表現を工夫して文章を書く」力を身に付けた。この単元では、それをもとにして、物語を書くために写真から物語の設定や前後のできごと、中心となるできごとを考え、読み手に様子が伝わる物語を書く学習を行う。そのために以下の段階を追って、物語を作る。

１）　物語の基本設定を考える。
２）　物語の構成（中心となるできごと・前後のできごと）を考える。
３）　会話文・心内語・オノマトペなどを入れる。
４）　文章にまとめる。

また、物語を作ったら、それを友だち同士で読み聞かせをし合う学習活動を取り入れる。その学習活動では、友だちの作った文章と自分が作った文章を比べ、書き方の工夫点や巧みさに気付かせるようにする。

②　目指す子どもの姿に迫るための取組

研究主題　**「自分の考えをもち、進んで伝える子」の育成**

中学年の目指す子の具体的な姿
・自分の考えを、根拠を明らかにして表す子
・友だちの考えに関連付けながら、聞いたり話したりする子

本単元を通して付けたい力
○写真をもとにし、その様子が伝わる文章が書ける。
○書いた文章を発表し合い、書き方の工夫点や巧みさなどについて意見を述べ合うことができる。

【手立て１】**「文章を書くときのきまりを身に付けるために視写をさせる」**

国語の教科書にある文章を視写する活動を行う。そのとき、ただ視写をするのではなく「だん落がかわるとき一ます空けよう。」「たて書きでは、漢数字を使おう。」というように、書くときに気を付けることを示す。そうすることで、文章を書くときのきまりを身に付けさせる。

【手立て２】**「文の数や時間の制限を意識して書かせる」**

行事のこと、普段のできごとについて、文の数を意識して書くようにさせる。文の数が設定されることで、文を繋げるためにはどうすればよいかを児童は考える。そこで、接続語を使うと良いことやそのときの様子を詳しく書くと良いことを指導し、書く力を高める。また、時間を設定することで、文章を書く速さも身に付けさせる。

【手立て３】**「音読し、文章を推敲する場を設定する」**

文章を書き終えたら、その文章を推敲することが不可欠である。これまでは、「書いた文章をもう一回読んで、間違いがないか確かめましょう。」という指示を出していた。しかし、それでも誤字脱字が多かった。そこで、音読することによって文章を推敲することを取り入れる。そうすることで、視覚と聴覚によって文や文章を捉えることができ、児童にとってより推敲の有効性が高くなると考えた。

【手立て４】**「文章を読み聞かせ、自分の文章と比べ意見を伝える活動を取り入れる」**

文章を書き終えたら、それを読み聞かせる。そのとき、自分の文章にはない表現の仕方や書き方の工夫点に着目させる。そうすることで、友だちの文章に対して意見を言えるようにさせる。その経験を重ねることで、友だちの考えに対して自分の考えをもったり、表現の仕方をよりよくするために助言をしたりできるようにしていく。

（３）指導計画（全６時間）

	小単元（主な学習活動）
１次２時間	①　教材文を読み、学習の見通しをもち、写真からわかることをメモする。 ②　写真の登場人物の会話を想像し、それをもとに前後のできごとを設定し、中心のできごと、前後のできごとを物語メモにまとめる。
２次３時間	③　教科書の物語例を読み、設定や組み立てをとらえる。物語例をもとに、表現の工夫のしかたを考え、物語を書く。また、書いた物語を推敲する。 ④　３枚の写真から１つ写真を選び、物語の基本設定や前後のできごと、表現の工夫（物語の構造・内心語・オノマトペなど）などを考え物語メモにまとめる。 ⑤　物語メモをもとに物語を書く。また、それを推敲する。
３次１時間 **（本時）**	⑥　できあがった作品をもとに、グループで読み聞かせ交流会を開き、心に残った表現や書き方のよさを伝え合う。

４　本時の学習（６／６時間）

（１）ねらい

できあがった物語をもとに、グループで読み聞かせ交流会を開き、友だちの作った物語の心に残った表現や書き方のよさを伝え合う。

（２）取組のポイント

【手立て１】**「グループ編成を仕組む」**

読み聞かせ交流会では、同じ写真を選んだ児童で３～４人程度のグループを編成する。また、内容を予め教師が確認し、類似していない文章を書いている児童のグループを編成する。そうすることで、同じ写真から様々な見方ができることや展開の仕方、表現の工夫ができることに気付かせる。

【手立て２】**「話すとき、聞くときの視点を示す」**

読み聞かせ交流会では、話し手と聞き手が話のどこに気を付けて話したり聞いたりすればよいかが分かるように、視点を示す。そうすることによって、話し手は自分の物語の工夫したところやおもしろさを伝えやすくし、聞き手はそれらを意識しながら聞くことができるようにする。

【手立て３】**「友だちの物語の良さを発見し、伝えるためのシートの活用」**

聞くときの視点をもとにして、聞き手は友だちの物語の良さを確認するようにする。そして、発表した後、友だちにそのシートを渡す。友だちの作った物語にある表現の工夫や感想を書き、それを話し手に渡すという相手意識をもたせることにより、一つ一つの言葉や文により着目させるようにする。

（３）展開

時間	学習過程	○教師の働きかけ　・児童の反応	・指導上の留意点　☆評価
5分	つかむ	○「読み聞かせ交流会」の仕方について説明する。 ・セリフを本当に話しているように読もう。 ・聞き手が聞きやすいように、間を空けて読もう。 ◎読み聞かせ交流会を開き、友だちのお話のよいところを見つけよう。	・話し手と聞き手のめあてを提示し、話し方、聞き方を確認する。 ・友だちの物語の良いところを確認するためのシートの書き方を指導する。
35分	深める	○同じ写真を選んだ児童のグループで読み聞かせ交流会を行うように指示する。 (運動会の写真) ・戦っている二人の会話が書かれていて、様子が伝わってきました。 ・会話だけでなく気持ちも書かれていて良かったです。 (クマの写真) ・「ガブッ」という魚を食べている音が書かれて、はく力がありました。 ・クマが魚を捕る前のことも書かれていて分かりやすかったです。 (ネコと人の写真) ・季節や時間も書かれていて詳しいお話だと思いました。 ・ネコの気持ちと子どもの気持ちが書かれていて、二人の関係が分かりました。 ○１つのグループを決め、１人に物語を読んでもらい、他の児童に感想を発表させる。	・予め決めておいたグループに分かれ、その中で発表させる。 ・自分の書いた物語をメンバー全員に見せながら読み聞かせをするように指示する。 ・物語の感想をメンバー全員が書き終えたら、次の児童が発表するように指示する。 ☆どんなできごとがあったか、表現の工夫を捉えることができる。また、感想が書ける。［ワークシート］ ・よりよい物語を発表しているグループを指名し発表させる。
5分	振り返る	○読み聞かせ交流会をして、自分の物語や友だちの物語について気付いたことや考えたことを書くように指示する。 ・○○さんのように心の中の言葉を使って書きたいと思いました。 ・○○さんのお話は会話文がたくさんあり、場面の様子がよく伝わってきました。 ・「ヒューヒュー」「ふわふわ」という言葉を自分も使って文章を書きたいと思いました。	・記入したシートをメンバーに渡すように指示する。 ☆自分の物語や友だちの物語について気付いたことや考えたことをノートに書くことができる。 ・時間に余裕があれば、ねらいに沿って書かれている振り返りを紹介する。

～板書計画～

十一月十八日

◎読み聞かせ交流会を開き、友だちのお話のよいところを見つけよう。

話し手と聞き手のめあて

話し手

・強弱に気をつけて読もう。
・間を空けて読もう（「、」や「。」）。
・会話文は、本当に話しているかのように読もう。

聞き手

・よいところを見つけよう。
　←
　見つけたら〇をつけよう。
・感想が言えるように、よく聞こう。

ふりかえり

自分の物語や友だちの物語について気付いたことや考えたことを書こう。

２学期実践レポート

３年１組　高野　真之介

１　国語　「写真が動き出す―写真から物語を作ろう―」

２　目指す姿と付けたい力

研究主題　「自分の考えをもち、進んで伝える子」の育成

中学年の目指す子の具体的な姿
・自分の考えを、根拠を明らかにして表す子
・友だちの考えに関連付けながら、聞いたり話したりする子

本単元を通して付けたい力
○写真をもとにし、その様子が伝わる文章が書ける。
○書いた文章を発表し合い、書き方の工夫点や巧みさなどについて意見を述べ合うことができる。

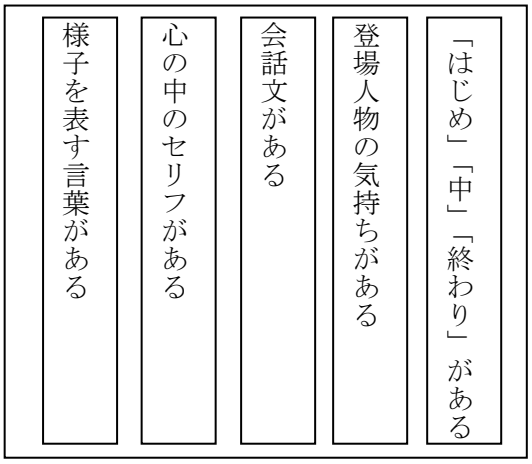
３　成果

授業の概要

本単元は、一枚の写真から分かることを考え、それをもとに想像を広げて物語を書くという、主に書くことが中心となる単元である。これまで児童は、「はじめ」「中」「終わり」に分けて文章を書いたり、文章の中に会話文を入れたりするなど、文章を書くときの表現方法を学んできた。本単元では、今までに学習した表現方法を使い、様子が伝わるように物語を書くという学習活動を行った。

書き方を工夫するための手立て

かぎ（「」）を使って会話文を入れたり、オノマトペを使った表現をしたりするためには、それらの項目を児童が意識しなければいけない。そのため、表現の工夫を示した紙を黒板に貼り（左に示す）、それをもとに、例として挙げられた物語のどの部分に対応するのかを示した。例えば、物語の中にある「登場人物の気持ち」には波線を引いたり、会話文の初めに　「会」と漢字を書いたりすることで、それぞれの観点と対応させた。その後、実際に物語を児童が書く。書いた物語にも同様に、波線を引かせたり、「会」と書いたりすることで、表現の工夫ができているかを児童一人一人に確認させた。



成果

- 物語を作った後、「ほかの写真でも物語を作りたい。」「うまく文章をかけるようになった気がする。」と「書くこと」を肯定的に捉える児童が増えた。
- 与えられた観点に沿って文章を書くことについては、初めて物語を書いたとき５つ全ての観点を含めて書けた児童は２８％であった。２回目に物語を書

いた後、観点を示し、自分でそれらを確認させることで、それが５７％になった。

・最初に書いた物語に比べ、「はじめ」「中」「終わり」に段落分けして書いたり、会話文やオノマトペを入れた文章を書いたりできた児童は全体の９０％になった。

４　課題

意欲的に物語を書くことはできたが、句読点がなかったり、脱字があったりする児童は少なくない。本単元を通して、どの児童がどれくらい書く力があるかを知る機会にもなった。一人一人のレベルを考慮し、その児童に合った課題を提示することで、スモールステップで書く力を高められるよう支援していく。また、本単元で得た知識・技能を活用できるように他の単元でも本時で学んだ書き方を活用させるようにする。

【日々の取組の工夫】

①　文の数や時間の制限を意識して書かせる。

行事のこと、普段のできごとについて、文の数を意識して書くようにさせる。文の数が設定されることで、文を繋げるためにはどうすればよいかを児童は考える。そこで、接続語を使うと良いことやそのときの様子を詳しく書くと良いことを指導し、書く力を高める。また、時間を設定することで、文章を書く早さも身に付けさせている。

②　文章を読み聞かせ、自分の文章と比べ意見を伝える活動を取り入れる。

文章を書き終えたら、「〇人に読み聞かせをしましょう。」と指示する。すると、子どもは席を立ち、ペアを作って読み聞かせを始める。そのとき、自分の文章にはない表現の仕方や書き方の工夫点に着目させる。そうすることで、友だちの文章に対して意見をもち、それを言えるようにさせる。

平成２７年度　校内研修のまとめ

文責　低学年・恩田　中学年・山岸　高学年・吉野

研究主題　「自分の考えをもち、進んで伝える子」の育成

【低学年】

（１）低学年の目指す子の具体的な姿

・自分の考えを、図や言葉で表す子

・友達の考えを最後まで聞き、はっきり話す子

（２）主な実践（〇重点単元　◎提案授業）

学級	授業者	１学期実践	２学期実践
１年１組	堀澤	〇算数「ひきざん（１）」	◎算数「たすのかな　ひくのかな」
１年２組	本間	〇算数「ひきざん（１）」	◎算数「たしざんとひきざん」
２年１組	植木	〇算数「たし算のひっ算」	◎算数「たし算とひき算」
２年２組	恩田	◎算数「たし算のひっ算」	〇算数「かけ算（３）」

（３）〇成果と△課題

☆ブロックなど操作活動・図をかく活動

〇低学年では、ブロックやおはじきなどの半具体物を使った操作活動や、図をかく活動は数の概念を理解したり、問題を立式して解いたりする（演算決定）上でとても大切である。１年生の１学期からこうした活動を積み重ねることでスムーズにできるようになった。また、より分かりやすい図のかき方を習得していった。

〇１年生の図は主に「〇」で表すが、２年生ではテープ図に移行していく。植木実践ではこれまでの「〇」をつかった図のよさと不便さに着目し、特に不便さを解消すためにはどうしたらよいかをじっくりと考えることで、テープ図のよさを感じられるようにした。この導入により、その後のテープ図の指導がスムーズになり、問題文に合ったテープ図をフリーハンドで素早く書く力が付いた。

△「問題文→図で表す→演算決定→式→答え」の一方通行でなく、この過程を行きつ戻りつしながら考えることが大切。そのためにも、次の課題設定が大切になってくる。また、図に表すことが難しい子どもは、問題文を正しく読み取れていない。文章読解力を伸ばすことも課題である。

☆問題・課題（発問）設定の工夫

〇ブロック操作や作図の必要性を実感させる問題が有効であった。また、様々な式が出てくるなど、いったいどの式が正しいのか…子どもの中に‘もやもや感’が生じ、解決したい！という意欲をもてる課題を設定することで、「問題文→図で表す→演算決定→式→答え」に戻り再考することができた。

〇問題提示の際には、既習の問題から入り、本時の問題とどこが違うかを明確にすることで、解決の見通しをもたせることができた。

〇主に教科書に沿いながら授業を進めていくが、教育書などを参考にして問題をアレンジしたことは有効であった。いずれも、子どもの実態把握とどういう力を付けたいかを明確に

して、適した問題を提示することが大切である。

△適切な課題提示をするには、付けたい力を明確にすることと、問題を解く子どもの様子を瞬時に的確に見取ることが大切である。そうした力量を高めていく。また、その際には、ネームプレートの活用も有効であった。

☆伝え合い（ペア・グループ・全体）

○自分の考えをもち、ペアで伝え合うことで自分の考えを整理することになった。順序を表す言葉を‘説明お助け言葉’としたり、指さしをしながら説明したりするようにしてきた。少しずつ、分かりやすい説明ができるようになってきた。また、日頃、なかなか声を出せない子どももペアの相手によっては出せたので、こうした配慮も大切である。

○練習問題が６問あったとしたら、①③は座席の右側の子どもがノートに説明しながら解き、②④は左側の子どもが同様にする。その後、右側の子どもは②④⑤⑥を自力で解く。こうした日頃の積み重ねも、説明する力を伸ばすことにつながった。

○グループ学習の際、同じ考えの子ども同士にすると、子どもは自信をもって話し合いができる。話し合いをする中で、自分の間違いに気付いていく姿も見られた。ホワイトボートや画用紙に書かせることは全体発表の際に有効である。

○全体で考える・まとめる場面では、この時間で付けたい力、教師の役割を明確にしておくことが大切。子どもの学びを適切に見取り、子どもの発言を意図的につなげたり、問い返したりする力量を高めてきた。１の１では、教師はあえて教室の後ろに行き、子ども同士の関わりを大切にしている。

△低学年では、「話し方・聞き方のやくそく」や「話型（主に１年)」を徹底させるが、そこに終始せず「話したくなる」「聞きたくなる」課題が大切である。また、「何を、何のために、どのように話し合わせるか」を授業者がしっかりと意図しておくことが大切であり、話し合いの仕方を教え、経験を積ませていく。

☆板書、ノート指導

○２年生の黒板はマス目がある。これを利用し、子どものノート見開き２ページと板書の左右を対応させたことは有効。さらに、左ページには本時の学習内容（学んだこと)、右ページでは練習問題などを解くようにした。ノートがしっかりとれていると、既習事項の確認がノートを使って一斉にできるようになり、教室掲示の必要がなくなる。

○板書の際、「◎（課題)・もんだい・まとめ・ふりかえり」プレートを活用している。しかし、ふりかえり　を書く時間は確保できない。子どものノート（プリント）や授業の様子で適切に見取るように心がけてきた。

△教材研究の際、子どものノートに実際に書いてみることも有効である。また、問題を解く、ノートに文字を書く、問題などをノートに貼るスピードに個人差がある。そのスピードを上げていくように、タイム制限をかけながら日々鍛えていくことも必要である。

（４）その他

＊低学年の実践では、算数の単元がほぼ関連していた。よって、２学年を通してどんな力をどのように伸ばしていくかなど、実践後の成果と課題を共有し授業に生かすことができた。

＊低学年では、学習になかなか向かおうとしない子どももいる。そういった子どもに合った支援を今後も模索しながらやっていく。共通な取組として、例えば月曜日の朝活動で、低学年合同おにごっこタイムなどを設定するのも一つの手立てである。

研究主題　「自分の考えをもち、進んで伝える子」の育成

【中学年】

（１）中学年の目指す子の具体的な姿

・自分の考えを、根拠を明らかにして表す子

・友だちの考えに関連付けながら、聞いたり話したりする子

（２）主な実践（〇重点単元　◎提案授業）

学級	授業者	１学期実践	２学期実践
３年１組	高野	〇国語「あらしの夜に」	◎国語「写真が動き出す」
３年２組	山岸	〇国語「つり橋わたれ」	◎算数「小数」
４年１組	大久保	◎算数「１けたでわるわり算」	〇国語「ごんぎつね」
４年２組	千保木	〇国語「ドリームツリー」	〇算数「２けたでわるわり算」
支援１組	山崎	〇道徳「げんきにごあいさつ」	〇道徳「世界に一つだけの花」

（３）〇成果と△課題

☆根拠を明らかにして表す力をつけるために

＜国語～読む～＞

〇登場人物のセリフに着目し、誰のセリフか根拠を明らかにする学習で、誰のセリフか意見が分かれる場面を大切にした。自分の立場をはっきりさせる、その理由をノートに記述する、考えの交流をするといった学習過程で、友達の考えに対して、自分の考えをもち発言することができた。

〇「ノートへの視写・書き込み」の学習方法を教え、毎時間繰り返した。思考を視覚化（？マーク、矢印、吹き出しの活用など）するスキルを身に付けさせることで自分の考えと友達の考えを比べる観点をはっきりさせられるようになった。

〇小見出しを考える活動で、自分の意見をノートに書く、全員が、板書しその後みんなの前で自分の考えと叙述に基づいた理由を発表するといった学習過程で、友だちの意見を聞いて、その根拠となる本文の部分に立ち返って確かめ読みをしたり、自分の考えを修正したりすることができた。

△国語科で根拠を明らかにするためには、何が書かれているか読み取り、読みを深める授業を作らなければならない。児童によって得意な学習スタイルが違う。いろいろなタイプの学習スタイル（劇化、動作化、小見出し作り等）を取り入れ、児童の反応を見ていく。特定の児童が困り感をもたないようにしていくことが必要である。

＜国語～書く～＞

〇身に付けさせたい表現の工夫（会話文、気持ち、様子を表すことば等）を例文で確認し、その後自分の文章についても表現の工夫について振り返った。工夫した箇所に印を付け、自分で確認することで、与えられた観点にそった文章を書く力がついた。

〇全員の意見を板書することで、書くことへの意欲を引き出し、発表会をすることを最終目標にしたことで、学習意欲を高めることができた。

△自分の考えを整理する力を高めるために、書く力をつけさせることが必要である。教科の用語を使ったり時間や時数を設定したりして、書くことに慣れさせていくことが大切である。

＜算数＞

〇キーワード（算数の用語）を提示し、全員が使えるようにしてきた。自分の考えを書いたり、話したりする時にこれらの用語を使うことができ、考えを書きやすくなった。また、聞く方にも分かりやすく、自分も説明しようとする意欲が高まった。算数の用語が共通の言葉として機能することで、友だちの考えに関連付けながら、聞いたり話したりすることができるようになった。

〇自分の考えを明らかにすることができるように、また見通しがもてるように、学習シートを工夫した。図、絵、式、ことば等を書きこむことで、自分の考えを整理したり振り返ったりするのに役立った。

☆友だちの考えに関連付けながら、聞いたり話したりする力をつけるために

〇意見交流の場の設定を工夫した。３人グループでの意見交流は、１人に対して２人で助言できる、友だちの考えと比べやすい、解答の妥当性を検討しやすいことから、話しやすい雰囲気の中で考えを伝えることができた。

〇課題が終わった児童から、ペアを作り意見交換をする。「〇人の友達とやろう」と、人数を設定することで、自分の考えと比べて友だちに意見を伝えるという経験を繰り返し行うことができた。

〇友だちの考えに関連付ける力をつけるために、振り返りの感想の中の１つに、友だちの発言に関連付けた記述も入れるように指導した。

△全体での意見交流では、教師が児童と児童の考えを意味付ける等、意見の橋渡しをする役目をすることが必要である。

☆人権教育・特別支援教育について

お互いを理解する上で土台となる人権感覚や、できて当たり前・知っていて当然と思われがちな人とのかかわり方について、改めて教えていく必要がある。特定の児童について取り上げるのは難しいが、人とのかかわり方の基となる考え方については、道徳の時間に関わらず、日常生活や全ての教育活動の中で繰り返し伝えていきたい。

（４）その他

〇既習事項、前時の振り返りを授業の始めにして、新しい課題に向かうスタートラインをなるべく揃える。

〇スモールステップで学習を進めることで、スモールステップごとの評価を行い、個別指導に生かす。

〇教材の共有化で、多忙化解消を図る。作った教材は、学年ごとに保管する。

〇本時で考えさせることは何か、どの場面（個人思考→意見の交流→個人思考）で、考えさせるかをはっきりさせて授業に臨む。

研究主題　「自分の考えをもち、進んで伝える子」の育成

【高学年】

（１）高学年の目指す子の具体的な姿

・自分の考えを、学習した用語を適切に用い、要点をまとめて表す子

・話し手の意向をたらえて聞き、相手に意向が伝わるように話す子

（２）主な実践（〇重点単元　◎提案授業）

学級	授業者	１学期実践	２学期実践
５年１組	吉野	◎算数「図形の角」	〇算数「図形の面積」
５年２組	保坂	〇算数「図形の角」	◎算数「図形の面積」
６年１組	志賀	◎国語「すいせんします。この委員会活動」	〇国語「すいせんします。この委員会活動」
支援２組	石川	・支援学級での国語、算数における基本的な構え　ほか	・「話し合い」のための基本スキルとマナーの指導
級外	若井	・出張授業で、「進んで伝える」ための視点について	・一斉指導において意識したい指導技術

（３）〇成果と△課題

☆グループ学習

〇 個人ではなかなか解決できないような少し難易度の高い課題にしたことで、どのグループも話し合いが行われた。また、意図的なグループ構成にしたため、解決に結び付く発言ができる児童が話し合いを進めた。

△ **発表した内容を、**どう練り上げていくか、収束させていくか。

△ 様々な教科の学習でも、児童同士で練り上げていく学習を積み上げていく必要がある。

〇 「自分が所属する委員会を自信をもって紹介したいという思いがあること」「４年生に、自分が所属する委員会を選んで欲しいと思っていること」「学習の成果を出したいと思っていること」などの、相手意識や目的意識を持たせたことで、能動的に学習活動に取り組むことができた。

〇 同委員会グループで見直し、アドバイスをした。新たな気持ちで互いの紹介文を読み、訂正や確認を行うことができ効果的であった。

△ 小グループを構成する上で、「記入済みの構成メモのチェックと分類」「学力（語彙、話力、文才等）」「人間関係（性格等）」等をもとにした。あらかじめ「ほぼ修正の必要がない児童」と「修正の必要がある児童」をチェックした上でグループ分けしたことが効を奏したが、チェックとグループ分けにかなりの時間を要した。学期毎に重点単元や重点内容を決めて取り組むと良い。

☆ホワイトボードの活用

〇 発表の際にはホワイトボードを活用した。使い慣れないと時間がかかるが、何度が使ううちに大きな文字で端的に書けるようになった。黒板上で移動できるので、似ている考え同士を並べて配置することができ、まとめがしやすかった。

☆ICT 活用

〇 操作の結果だけではなく、紙を切ったり動かしたりする過程を ICT で提示することで、図形の変形について理解を促すことができた。また、紙で操作すると、長さが合わな

いはずなのにぴったりと合うように見せることができるが、その誤りを ICT で確認することができた。

○ デジタルＴＶで映した発表により、集中して意見を聞いていた。また、発表内容を図や式で残したことで、共通点を見付けることができ、話し合いを深めたりまとめたりすることができた。

△ デジタルＴＶの特性上、写したものは黒板などに残らないため、発表した内容を関連させることができなかった。各グループで改めて、簡単に書けて、全員に見えるようなワークシートを作る必要があることが分かった。

☆用語の活用

○ 単元で扱う算数的用語を示した。子どもたちは「ここが～」「線を引いて」ではなく、「角Ａが～」「対角線を引いて」のように、適切な用語を用いながら説明をすることができた。また、説明を書く際には、一文を短くして箇条書きにすることを指導したところ、端的に表現する子どもが増えた。

☆「構成メモ」の活用

○ 「活動内容」「喜び」「自分が成長したと思うこと」などの視点をもとに、構成メモを作成することで、伝える内容を明確にすることができた。また、次単元につながるよう、「はじめ」「中」「終わり」　をメモの形式に加え、紹介文を書きやすいようにした。

☆ソーシャルスキルについて

○ 「どうしてうまくいかなかったのかを振り返る」「みんなから意見を聞いたり、みんなに確認する役目を決める」「職員が話し合いに参加しない役とわがままを言う役をして、話し合いを行いマナーを確認する」「実際の場面から振り返る」など、話し合いの指導と実践を繰り返してきたことで、「長縄で何をするのかを決める」という話し合いは上手になった。以前はなかなかまとまらず、長々としていた話合いが短時間で終わるようになった。また、自分の意見を曲げなかった子どもが、「今回はみんながやりたいことをやるよ。」と譲る場面も見られるようになった。以前よりも、話合いの中でのトラブルが減ってきている。ソーシャルスキルの学習により、他の子を指導している間は、声をかけるのを待ったり、順番を守ることができるようになったりしてきている。

△ 話し合いをすればするほど、新たな課題が出てきて、非常にマナーが細かくなってきている。また、すぐには改善できないこともあり、そのことが原因で話し合いがうまくいかないこともある。長期的な取組と指導を重ねていくことが必要であると感じている。

（４）その他

一斉指導において意識したい指導技術の工夫

①聞き方などの基本的事項を徹底する（間違いは消さないなど）

②スモールステップでテンポを大事にする（課題を細分化して児童に提示する）

③素早い確認（机間巡視や氏名の仕方など）

④個別支援の時間を生み出す（短く数回に分けて個別支援をするなど）

⑤具体的に短く褒める

⑥振り返りができるための印をつける（できた印と間違えた印をつけて、何度もチャレンジする）